

## 「MAPKシグナルが制御するRNA結合タンパク質」

The RNA-binding proteins regulated by MAPK signaling

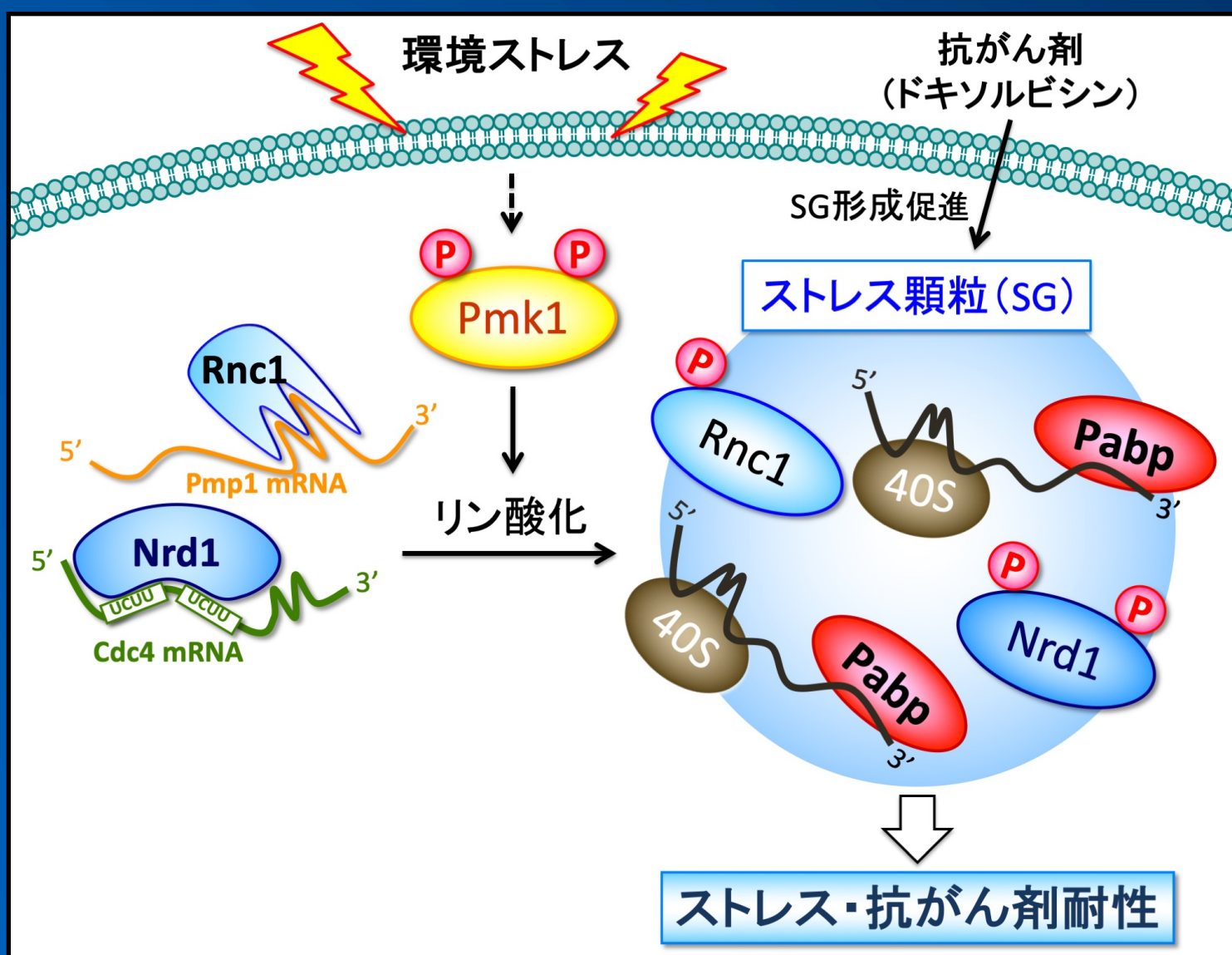
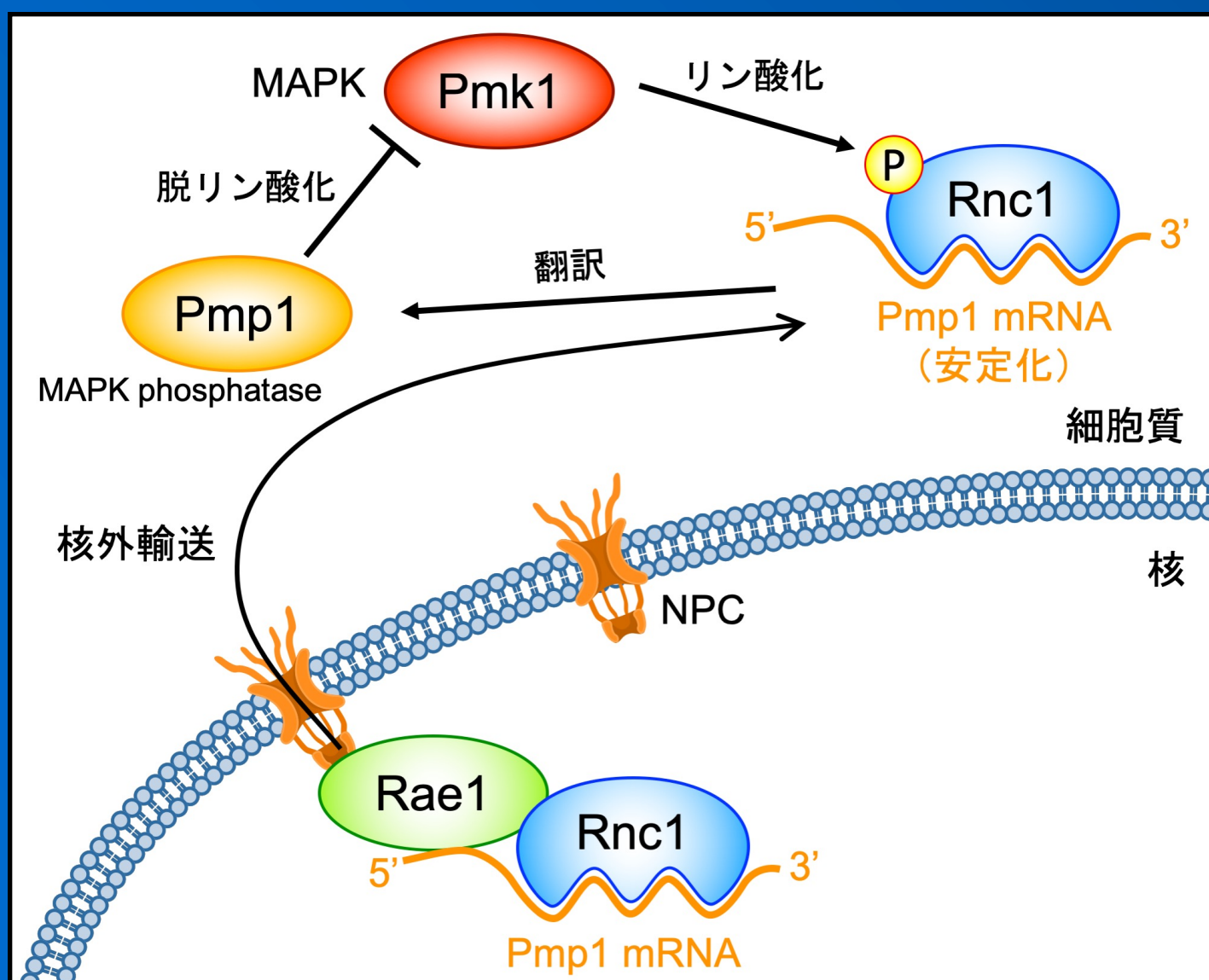
**佐藤 亮介博士**

(近畿大学薬学部創薬科学科助教)

(世話人: 登田 隆 特任教授  
大学院先端物質科学研究科  
分子生命機能科学専攻)

### 《概要》

MAPキナーゼ(MAPK)は真核生物に高度に保存されたセリン/スレオニンキナーゼであり、細胞増殖やがん化、アポトーシス、分化などを制御する極めて重要なシグナル伝達分子である。私が所属する研究室では、分裂酵母を用いた遺伝学的スクリーニングにより、MAPKシグナルの制御因子や標的因子を数多く同定している。その中でも、RNA結合タンパク質Rnc1とNrd1は、共にPmk1 MAPKによってリン酸化されることでRNA結合能が制御される。さらに、Rnc1は標的mRNAと結合することで、mRNA核外輸送システムにより核外輸送される。また、この核外輸送はRnc1がMAPKシグナルを調節する上で、必須な役割を果たすことを見出した。一方で、Pmk1 MAPKシグナルが活性化するような環境ストレス条件下では、Rnc1とNrd1は共にリン酸化され、ストレス顆粒(SG)へと局在する。本セミナーでは、MAPKシグナルによって制御されるRNA結合タンパク質の空間的な制御機構について紹介する。



※本セミナーは5研究科共同セミナーです

**開催日時: 平成30年12月7日(金) 15:00-16:00**

**会場: 広島大学先端科学総合研究棟 405N教室**

お問い合わせ先

登田 隆: E-mail: takashi-toda@hiroshima-u.ac.jp TEL 082-424-7868